



# 区民の皆さまに愛されて **200** 回

## ～アトリウムミニステージ第 200 回特別公演♪～

と き 8月21日(水) 午後0時15分～0時45分

ところ 練馬区役所本庁舎1階アトリウム (豊玉北 6-12-1)

21日、練馬区役所1階アトリウムで開催されている「アトリウムミニステージ」が200回を迎え、特別公演を行った。区民に身近な場所で気軽に文化芸術に親んでもらおうと、平成8年12月に区役所アトリウムの完成を記念して始まったこの事業も、今では「毎月第3水曜日のお昼のステージ」としてすっかり定着。小さな子ども連れから高齢者まで幅広い年代の方に楽しんでもらっている。

今回の特別公演は、保育園や小中学校でのコンサートなどを中心に活躍されている盲目のピアニスト島筒英夫さんを迎えた記念コンサート。島筒さんは、全国の保育園や幼稚園で卒園式の時期に歌われている「さよならぼくたちのほいくえん(ようちえん)」の作曲家としても知られている。

演奏を聴き終えた方は「盲目の方とは思えない、力強く若々しい演奏でした。合間のお話にあった『逆境は宝物の入口』という発想がすばらしい」と話した。



【会場のようす】

### 【当日の様子】

会場となったアトリウムにはイスがおよそ100席用意されていたが、それを上回る345人が来場。ステージを取り囲むように立ち見の人があふれていた。司会者の紹介を受け、島筒さんがステージに登場し、「最近も練馬区の幼稚園や保育園で演奏をし、出身大学も武蔵野音楽大学で何かとご縁があります。まずは自慢の曲から披露します。ぜひ一緒に歌って下さい」とおだやかな口調であいさつ、そしてコンサートはスタート。保育園や幼稚園の卒園式で歌われる「さよならぼくたちのほいくえん(ようちえん)」の曲が始まると、一緒に口ずさむお子さんやお母さんもいて、この曲がいかに親しまれているかが見受けられた。続いて、原作本をイメージして島筒さんが作曲したピアノ語り一人二重奏「世界がもし100人の村だったら」を演奏。生きることへのメッセージを含んだ詩の朗読と美しい音色は、聴いている人それぞれの心に響き渡った。中には涙ぐむ人もおり、会場は感動の拍手に包まれた。曲の合間には、島筒さんが自身の生い立ちなどを話し、盲目であることをハンディと思わず、「盲目だからピアノに出会えた」ということばに、みな真剣な表情で聞き入っていた。最後は、ショパンの「英雄ポロネーズ」の力強い演奏で締めくくった。

### 【出演者のプロフィール】

ピアニスト・作曲家。昭和27年東京都生まれ。2歳の時に病気で失明。6歳からピアノを始め、全盲の障害者として初めて区内にある武蔵野音楽大学ピアノ科に入学。卒業後、オリジナル曲とクラシック曲にトークを交えたプログラムで、ファミリーコンサートやスクールコンサート等を行っている。今回の出演について、「練馬といえば、区内の幼稚園、保育園や小中学校から講演の依頼を度々受けている。何より出身大学も区内にある。今回ミニステージ200回記念にも巡りあえて、うれしいご縁」と語った。

【問い合わせ】 公益財団法人練馬区文化振興協会 電話 03-3993-3311